

どんどん踊ってさんさデビュー

ドンドンアップ 盛岡の企業として初参加



ドンドンタウン オン ウェンズデイ盛岡南店

盛岡市菜園のドンドンアップ（岡本昭史社長）は、初参加。50人が演舞する。同社は、創業22年目の地場企業で、リサイクル古着店で、ドンドンタウン オン ウェンズデイを全国に60店舗を普及させ、チェーン展開している。

同社広報部の工藤知世さん（24）は「東京支社を設置して全国展開をしているが、本社は盛岡。地場企業でありながら、これまでさんさに参加してこなかった。今度はちゃんと会社として参加し、地域の祭りを盛り上げた

い」と言う。練習は、矢中町の流通センターにある自社倉庫。仕入れた在庫や海外に送る品などがある。本格的な練習は6月上旬から。さんさ踊りの経験者らが、踊り、太鼓の指導にあたって

本社のほか、盛岡市内の3店（盛岡南店、月が丘店、イオンスーパーセンター渋民店）のスタッフが集まり、太鼓、踊りの練習をしてきた。初参加者は、さんさ経験者から教わったり、YouTubeの動画を見て自主的に学んでいる。

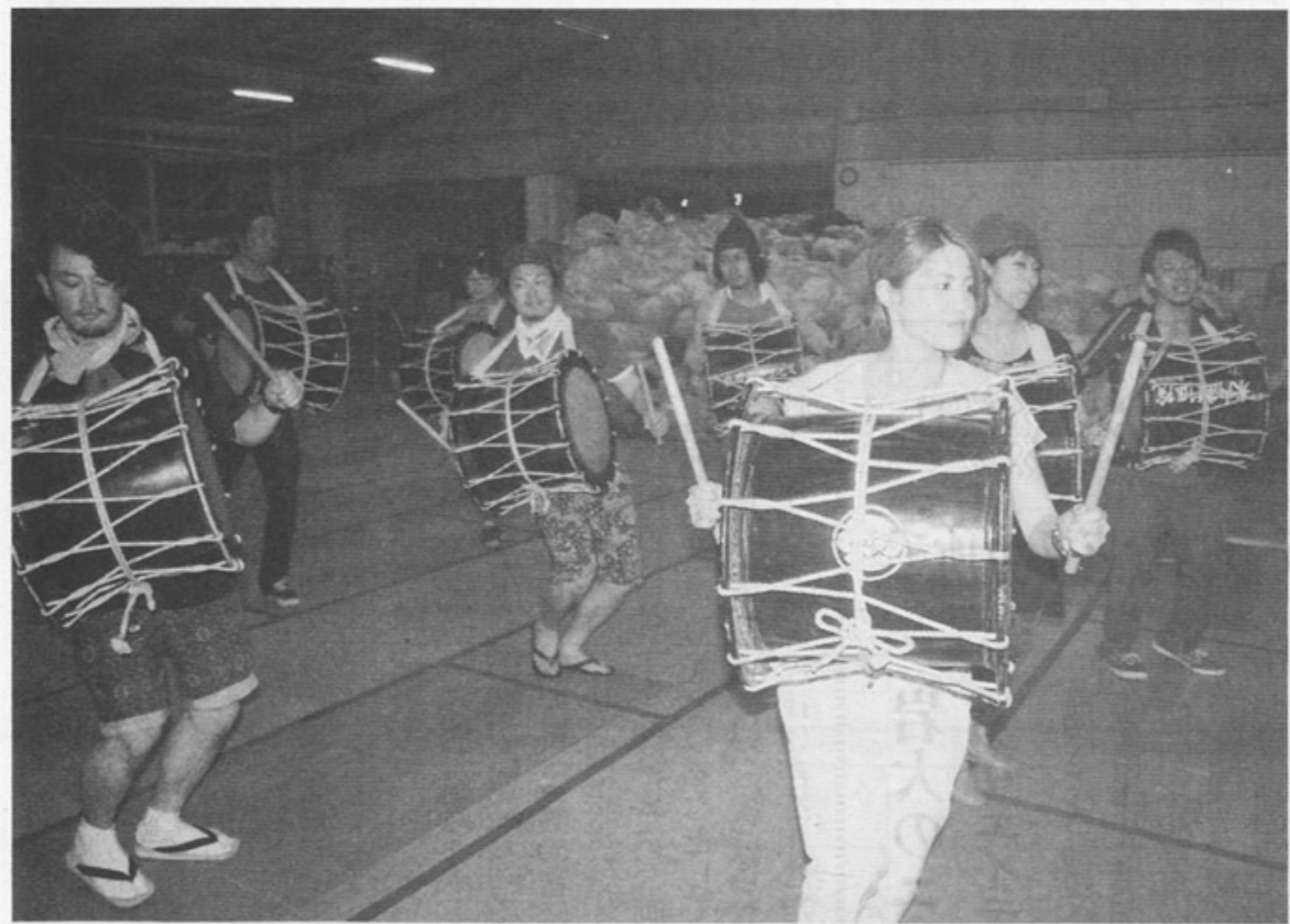
集合時間は、午後7時。しかし仕事を終えてからのため、みんなが集まるのは7時半すぎになる。全員参加でなく、その日の早番担当が集まったの練習で、午後9時半ころまで練習する。

練習は、和気あいあい、学園祭の感覚。それでも、練習中は汗びっしょりになり、一生懸命に励む。太鼓で参加する七戸里子さん（28）は、高校時代にさんさに出ている。「10年ぶりの参加。練習して

から、当時の感覚がよみがえってきた。本番は、はっちり。観光客にも、アピールできるようなたく」と帽子をかぶり、練習していた。藤本和さん（22）は、小学校時代に太鼓でさんさに参加。「私も10年振りの参加。1回練習したら、たたき方やリズムが、戻った。太鼓

は楽しい。本番では、さんさが楽しくなるように太鼓を披露したい」と力を入れる。山田美華さん（19）は、初参加。「踊り出ると、盛岡の伝統的な踊りに出られてうれし

い。練習は、楽しい」と仲間と笑顔で練習していた。リーダーの吉田厚さん（35）は、「僕も初参加。太鼓で出る。本番は『楽しくい〜っせー』の掛け声で、スタートする。当社らしさで踊ると気合い十分。さんさ本番では、同社の特性を出すためりメイクの浴衣を着ての参加。顧客がりメイクしたオリジナル浴衣で踊る。



矢中町の倉庫で練習するスタッフら